



平成
28年度

決算額108億円の使い道

平成28年度の町の収入と支出の実績を表す決算が、町議会定例会9月会議で認定されました。一般会計では歳入が約108億円、歳出が約102億円となりました。ここでは決算の概要について紹介します。

総額が7年連続で100億円超 今年度も高い自主財源比率を維持

歳入 歳入総額は前年比3・3%減少
町税は前年比約1億1千万円増加

町に入ってきたお金（歳入）の総額は約108億円で、前年度に比べて約3億6千万円減少しました。

主な内容は、障害者支援事業や臨時福祉給付金給付事業などにより国庫支出金が約8千万円の増加、県支出金は農業振興費補助金などにより、県支出金が約3千万円の増加となりました。また、地方消費税交付金、地方交付税は合わせて約1億円の減少となりました。

町税などの町が自ら収納して使えるお金「自主財源」は49・5%と前年度より0・8%減少しましたが、町税は総額で約36億7千万円と依然高い数値を保持しており、健全な財政運営の大きな力となっています。

今後も厳しい財政状況は続く予想されますが、自主的な財源による事業運営の推進と自主財源の確保に努めてまいります。

歳出 教育費が前年比21・1%減少
公債費も前年比17・6%減少

町が使ったお金（歳出）の総額は約102億円で、前年度に比べて約4億円の減少となりました。

主な内訳では、教育費が再生可能エネルギー導入事業、総合体育館耐震補強工事が完了したことなどにより約1億8千万円の減少、公債費が約1億9千万円の減少となりました。なお、災害復旧費は平成25年に発生した豪雨災害に伴う復旧事業がほぼ完了したことにより、約2億円の減少となりました。

今後は岩手医科大学附属病院の移転に伴う周辺道路整備事業などが本格化するほか、地方創生事業および第7次矢巾町総合計画前期基本計画の推進に取り組むことにより、引き続き業務の効率化と支出抑制を行いながら、健全な財政運営に努めてまいります。

▼歳入用語解説

国庫支出金：事業に対する国からの補助金

県支出金：事業に対する県からの補助金

地方交付税：町の財政力に依じて国から交付されるお金

自主財源比率：歳入全体のうち、自主財源がどのくらいあるかを示す割合。この数値が高いほど国や県に頼る割合が少なく、財政が健全であるといわれています。

▼歳出用語解説

総務費：一般事務経費や財産管理、積立金など

民生費：老人福祉や障がい者福祉、保育園費など

衛生費：病気の予防のための各種検診やごみ処理、し尿処理など

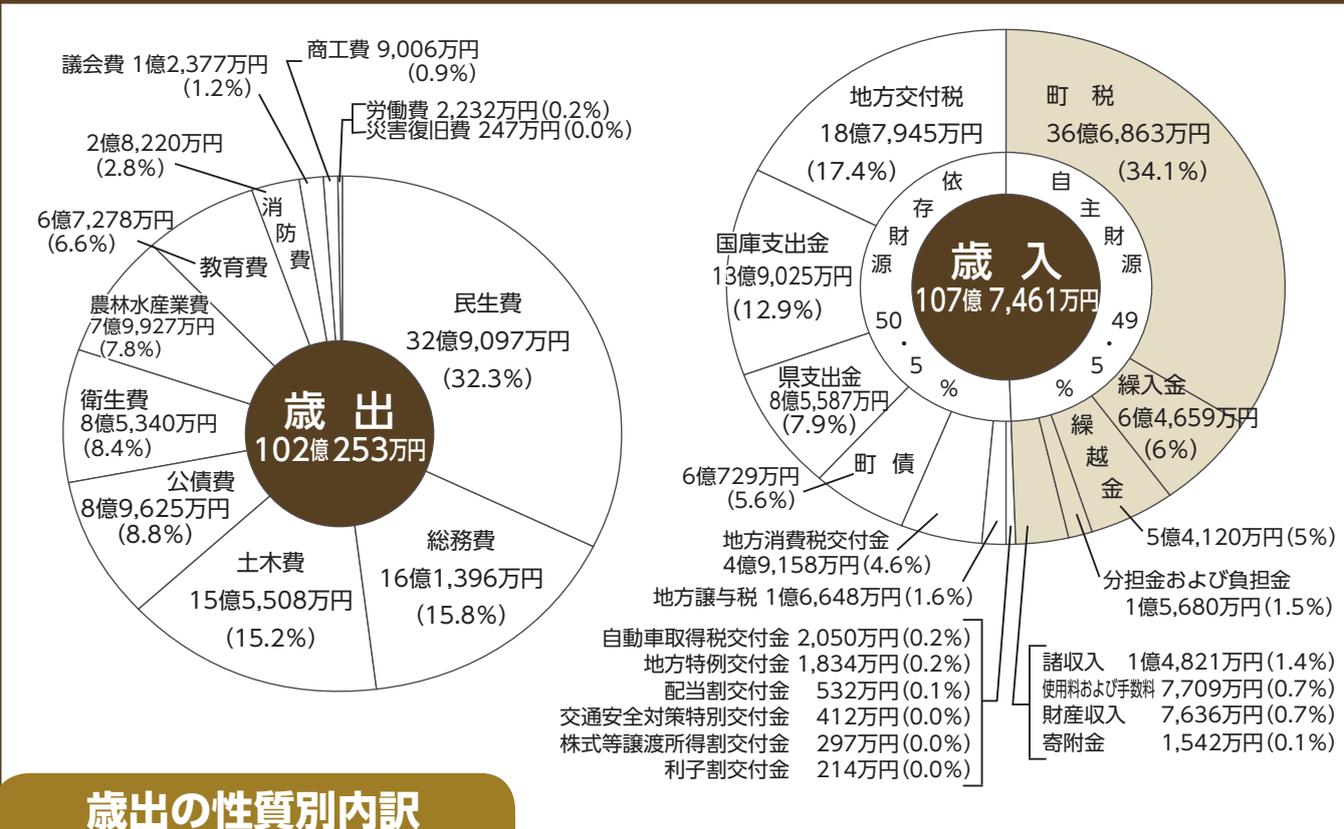
農林水産業費：農業の振興や農道の整備など

土木費：道路整備や区画整理、下水道整備、河川や橋の整備など

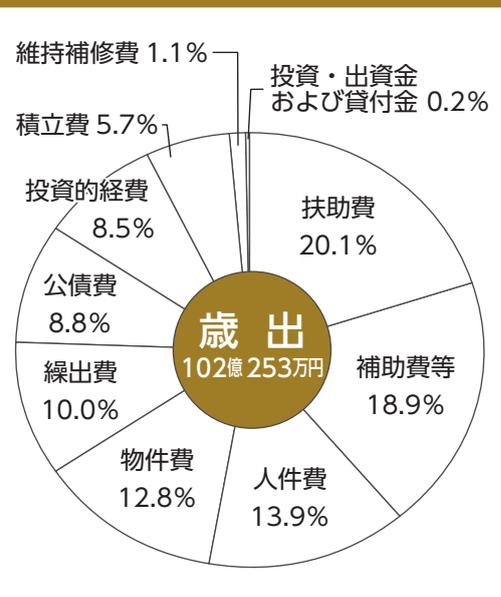
公債費：事業を行うために借入れたお金（町債）の返済金

実質公債費比率：公債費が財政に及ぼす負担を表す指標。一般に、この数値が低いほど財政状態が良いとされています。

平成28年度 一般会計決算の構成

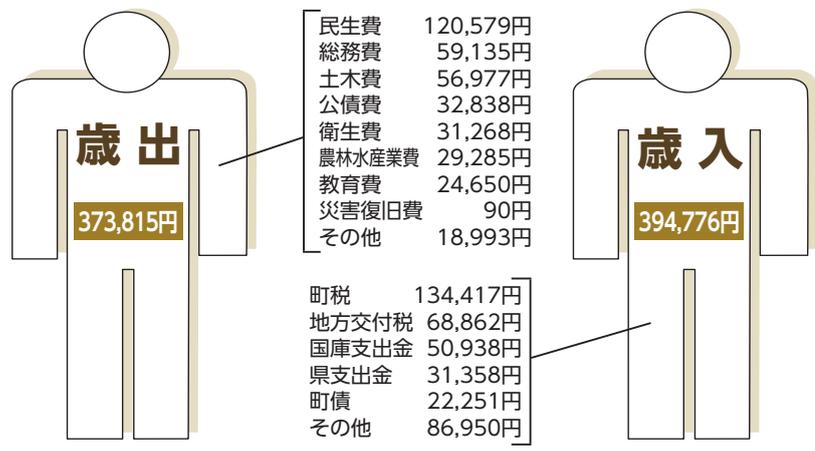


歳出の性質別内訳



町民1人当たりに換算すると…

(平成29年3月末の人口27,293人で計算)



平成28年度特別会計・公営企業会計の決算

会計名	収入額	支出額	会計名	収入額	支出額
国民健康保険事業	29億3,566万円	28億2,573万円	水道事業	収益的	7億2,024万円
介護保険事業	19億4,397万円	18億6,055万円		資本的	9,386万円
後期高齢者医療	1億7,896万円	1億7,753万円	下水道事業	収益的	8億4,522万円
矢幅駅周辺土地区画整理事業	6億7,275万円	6億5,002万円		資本的	10億9,320万円

(千円を四捨五入)